

旧村川別荘 S P レコード鑑賞会

演奏日時

第一回 11月30日(土) PM2:30~3:30

第二回 12月 1日(日) PM2:30~3:30



共催／ 我孫子市教育委員会



我孫子オーディオファンクラブ



手作り蓄音機

1920年代の蓄音機の部品・部材を集めて製作。ホーンはボール紙と和紙で作り、内側にはバイオリン用の天然ニス塗布。尚、再生にはソーン針(サボテンの刺)を使います。

蓄音機から出る音はセピア色した昔の写真の様。少しボケてはいるけれど、味わいのある「音の原風景」をお楽しみ下さい。



ソーン針(サボテンの刺)

プログラム

※ 演奏レコード 下記の通り約 1 時間。時間が余れば適宜追加いたします。

曲名	作曲者	演奏者	使用レコード
女心の歌	ヴェルディ	Ten E・カルーソー	米 VIC 1904
<p>「風の中の羽根のように」(歌劇「リゴレット」からのアリア) 劇中 マントヴァ侯爵が浮気な女心をうたう有名な小唄。エンリコ・カルーソー(テナー)(1873-1921) イタリア、ナポリ生まれ。20世紀初頭から1920年までの期間、伊スカラ座、英コヴェントガーデン、米ニューヨーク・メットを中心に空前絶後の人気を誇った名テナー。</p>			
みそさざい(歌曲)	ベネディクト	Sop A・ガリ・クルチ	米 VIC 1918
<p>野鳥ミソサザイの囀りに乗せた軽やかなコロラトゥーラの名曲。作曲はドイツ生まれで英国の作曲家ジュリアス・ベネディクト(1804-85)。ウェーバー、フンメルに学び、幾つかオペラや合唱曲を作ったといわれるが、本曲と歌曲「ジブシーと小鳥」以外 現在ではほとんど知られていない。作詞はロージェ(イタリア語)。アメリータ・ガリ・クルチ(ソプラノ)(1882-1963)はこの曲を得意とした。イタリア、ミラノ生まれ。20年代以降メットの人気歌手となり30年代までプリマとして活躍。</p>			

↑ 以上ラッパ吹き込み

↓ 以下電気録音

エレジー(歌曲)	マスナー	Bas TH・シャリアピン	米VIC
<p>フランスの作曲家 マスナー(1842-1912)は 歌劇「マノン」「ウェルテル」「タイス」などの作曲でも有名。本曲は甘味な旋律のなかに春への惜別を歌った名曲。作詞はルイ・ギャレ(フランス語)。テオドール・シャリアピン(バス) (1873-1938) はロシア生まれ。20世紀前半を代表する最大のバス歌手。中でも彼の「ボリス・ゴドゥノフ」は天下一品といわれた。</p>			
ハバナラ	ビゼー	Msp C・スペルビア	英 PALOHON 1930
<p>「恋は野の鳥」(歌劇「カルメン」からのアリア)カルメンが自分に無関心を装うドン・ホセを挑発してうたうシャンソン。ハバナラはもともと英国の地方舞曲だったが、スペイン経由キューバで大流行した。コンチータ・スペルビア(メゾ・ソプラノ)(1895-1936) スペイン、バルセローナ生まれ。20世紀最大のカルメン役者といわれた。</p>			

曲名	作曲者	演奏者	使用レコード
チゴイネルワイゼン	サラサーテ	Vn R・リッチ	独 ELECT 1933
<p>スペインの作曲家 P. サラサーテ(1844-1908) は自身 名ヴァイオリニストでもあった。本曲は説明の要らない余りに有名な彼のヴァイオリン曲。ルッジェルロ・リッチ(ヴァイオリン)(1918-2012) 米国サンフランシスコ生まれ。天才少年としてデビューし、永いキャリアを誇ったが 無類のテクニシャンとして知られた。</p>			
甘き死よきたれ	BWV 478 J. S. バッハ	Vc P・カザルス	日 VIC
<p>パブロ・カザルス(チェロ)(1876-1973)スペイン生まれ。史上最大のチェリストにして 同郷のピカソと並び称される20世紀芸術界における世界的巨人。本曲はバッハによる宗教的アリアの一つであるが、カザルスはこうしたバッハ作品もチェロ用に編曲し、こよなく愛奏した。</p>			
聞かせてよ愛の言葉を	シャンソン	L・ボワイエ	日 VIC 1930
<p>ジャン・ルノアール(映画監督とは別人)による作詞作曲で、リュシエンヌ・ボワイエ(1903-83) の歌で大ヒットした。ボワイエは仏パリ生まれのシャンソン歌手。「私の心はバイオリン」は彼女のもう一つの大ヒット曲。</p>			
人の気も知らないで	ダミア		日 COL 1930
<p>フランスのシャンソン歌手。本名マリー・ルイズ・ダミアン。「暗い日曜日」、「人の気も知らないで」等で日本でも知られる。主たる活動期間:1911年-1955年。</p>			
春雨(端唄)	藤本 二三吉		日 COL
<p>藤本 二三吉(1897~1976) 日本で最初にレコード吹き込みをした芸者。声量豊か。紫綬褒章(昭和43年)勲四等瑞宝章(昭和50年)受賞。</p>			

